

令和2年12月1日

長与町議会
議長 山口 憲一郎

研修報告書

長与町議会議員研修要綱第7条の2の規定により、次のとおり公表します。

1. 研修名（主催者） 令和2年度市町村議会議員特別セミナー
（市町村職員中央研修所）
2. 研修日時 令和2年10月17～18日（2日間）
3. 研修場所 市町村職員中央研修所（千葉県千葉市）
4. 研修目的 議員の資質向上及び議会の活性化に資するため
5. 研修参加者 金子 恵 議員

6. 所 見

○ これからの政治の行方 政策研究大学院大学教授 飯尾 潤氏
飯尾氏は、多くの政党が「何が選挙で国民にウケるか」だけを考えて政策を作っている。そうではなくて、政策は国民と対話しながら作らないといけない。という政治に関する考え方を持つ東大出身の政治評論家である。今回の講義の内容は、昨今の政治の成り行きを中心に聞くことができた。現在の菅首相は、理屈で物を考えない、まず自分でやってみる。ダメなら他のやり方を考えるというタイプだという。また、人脈的に使える人材なのかを考えつつ人事を考えるという。政治家は様々なタイプの人がいるが、1年の暫定政権と言われる中でも結果を出す首相として期待したいと思う。

○ 前例より前進～今、求められる議会改革～

犬山市議会議員ピアンキ・アンソニー氏

議会改革を推進する議会、議員にとってはとにかく有名な議長経験者の犬山市議会議員ピアンキ・アンソニー氏の講義を受けることができた。議会において、改善が必要と思う時にそれまでと同じことをやってもいけない。新しいことに取り組んでいく姿勢が重要。これができない人は議員にはいらないとはっきり公言するくらい、改革に力をいれた方である。犬山市議会

では住民の声を直接聞く「フリースピーチ制度」を取り入れている。方法としては、議員の一般質問と同様、募集し通告書を提出してもらっている。また、その内容に関しては全員協議会において「議員間自由討議」を実施し、政策に繋げているとのことである。本議会においても基本条例に自由討議が盛り込まれているが、実施した回数は僅かである。様々な場面において活用することで、政策展開、合意形成がなされればと感じた。

○ 連携・協働による持続可能な地域づくり

高崎経済大学教授 櫻井 常矢氏

今、なぜ地域づくりに取り組まないといけないのか。事例を盛り込みながらの講義が行われた。これからの40年間で4000万人の人口減少が言われている中、高齢化、一人暮らしの増加など課題が見えている。しかし、その一人暮らしの高齢者を見守る民生委員のなり手がいない。これは、行政だけで対応できない課題であり、地域の力がないと解決できない問題が多くなった。ここに地域づくりを求める意味が出てくるという。だが、高齢世帯の退化により、自治会費が負担になり退会する。自治会活動も輪番制により、地域づくりにこだわりがなくなってきていることも問題だと説いた。この希薄な関係を新たに構築し直した事例として、コミュニティ・学区・協議会・自主防災組織がそれぞれ総会を開くなどバラバラだったものを一つにしたことで協働が推進されたという。これは、無駄を省く合理的なやり方であり成功事例である。本町においても帳面消しの総会をするだけの組織や、視察という名の旅行に行く組織と間違ふようなものもある。今後、事例を示しながら提案をしていきたい。

○ コロナ禍で加速する働き方改革

株式会社ワークライ・バラツ社長 小室 淑恵氏

仕事ができる人が休むことで下が育つ。そして、その人には責任感が生まれるという。確かに、経験上、誰かがしてくれるという人も多いように感じる。全員が責任をもって仕事をすることで効率があがり、誰かが急に休んでも困らないという事例が熊本地震後、実際にあったという。一人ひとりが責任を持ち仕事をすることで、男性の育休も取りやすくなる。男性育休100%を達成している会社では、採用に困っていないということである。しかしこれに関しては大企業の話、公務員の話のように感じている人も多い。だが今後の子育て世代への支援には必要で、産後うつ予防にもなるという。出産うつ→急激に女性ホルモンが減少→自殺という事態になるという。産後うつに関してはこれまでも課題として上がっている。本町での支援はしっかりと実施されていることは、妊産婦の大きな安心になると改めて感じた。